



平成 17 年 (ハ) 第 <span style="background-color: black; color: black;">          </span> 号		裁判官 認 印	
第 1 回 口 頭 弁 論 調 書			
期 日	平成17年9月30日 午前10時00分	東京簡易裁判所民事第3室法廷で公開	
裁 判 官	岡 崎 昌 吾	出 頭 し た 当 事 者 等	
裁判所書記官	村 上 誠	原告代理人 <span style="background-color: black; color: black;">          </span>	
司 法 委 員		(被告 な し)	
指 定 期 日	平成 年 月 日 午 前 後 時 分		
(和解・弁論準備・証拠調べ)	<input type="checkbox"/> 判決言渡し	<input type="checkbox"/> 追って指定 <input type="checkbox"/>	
弁 論 の 要 領			
原 告 等		被 告 等	
<input type="checkbox"/> 訴状陳述 <input type="checkbox"/> 仮執行宣言申立 <input type="checkbox"/> 請求の減縮申立書陳述 <input type="checkbox"/> 付帯請求起算日 平成 年 月 日 <input type="checkbox"/> 訴状訂正 (訴変更) 申立書陳述 <input type="checkbox"/> 準備書面 ( . . . 付け) 陳述 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 答弁書陳述擬制 <input type="checkbox"/> 請求棄却申立 <input type="checkbox"/> 請求の減縮に同意する <input type="checkbox"/> 請求原因事実は認める <input type="checkbox"/> 準備書面 ( . . . 付け) 陳述 <span style="float: right;">擬制</span> <input type="checkbox"/>	
書 証 (甲)	人 証 等	書 証 (乙)	人 証 等
	<input type="checkbox"/> 原告本人 <input type="checkbox"/> 証人 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 被告本人 <input type="checkbox"/> 証人 <input type="checkbox"/>
裁 判 所			
<input checked="" type="checkbox"/> 訴訟代理人許可 ( <input checked="" type="checkbox"/> 原告・ <input type="checkbox"/> 被告 ) <input type="checkbox"/> 和解勧告 <input type="checkbox"/> 付弁論準備手続 <input type="checkbox"/> 付自庁調停 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 弁論終結 <input type="checkbox"/> 別紙のとおり主文及び理由の要旨を告げて判決言渡し <input type="checkbox"/> 判決原本に基づき判決言渡し <input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 出頭当事者口頭弁論の結果陳述 <input checked="" type="checkbox"/> その他の記載は別紙のとおり <input type="checkbox"/> 証拠関係は書証目録のとおり <input type="checkbox"/> 証拠関係は証人等目録のとおり		<input type="checkbox"/> 出頭当事者弁論準備手続の結果陳述 <input type="checkbox"/> 続行 <input type="checkbox"/> 延期 <input type="checkbox"/>	
		裁判所書記官 村 上 誠	

(注) この調書に符号を使用したときは、事件記録の表紙による。該当事項は□に認印したものに限り、選択事項は○印で表示したものに限り。

弁論の要旨

申立人の移送申立てについて（平成17年(ワ)第072462号）

裁判官

相手方の意見を聴いた上、本件訴訟を名古屋簡易裁判所に移送する。

理由

本件において、争点となると思われる過剰与信等の事実関係の存否を判断するためには、申立人本人の尋問や、相手方契約担当者の尋問などが予想される事案であり、申立人の応訴の利益を考慮する必要があるほか、申立人と相手方の経済力等を考慮すると、その格差は歴然としており、本件は当事者間の衡平を図るため必要がある。

よって、民事訴訟法17条により、本件を申立人の所在する名古屋簡易裁判所に移送する。



これは謄本である。

平成17年9月30日

東京簡易裁判所民事第3室1係

裁判所書記官 村上

